

千万町茅葺屋敷 について



岡崎市副市長
寺田 雄司 氏

教育随想



平成26年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎市副市長 寺田 雄司氏	
この人に聞く	2
元MTB(マウンテンバイク)プロ選手 鈴木 雷太氏	
羅針盤	2
井田小学校長 岡田 豊	
ふれあい	3
竜海中 金澤 徹	
特集	4
平成26年度岡崎の教育	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー ...	8
アイドル犬「アパッチ」の 慰霊祭(昭和56年)	
この本を	8

岡崎市の北東部に位置する千万町(ぜまんぢょう)町に、築後約三〇〇年といわれる茅葺屋敷があります。敷地内には小川が流れ、裏には棚田も広がり、屋敷一带は昔の農山村の風景を留めています。

この茅葺屋敷は、屋敷の所有者の御厚意により、その裏の棚田とあわせて岡崎市が無償でお借りし、地元「じさんじよの会」という団体の協力を得て、田舎暮らしの体験、田植え・稲刈りといった農業の体験、そば打ちの体験など、懐かしい昔の農村の生活を体験できる施設として、毎年、子供たちも含めて一万人を超える人に御利用いただいております。しかし、所有者との契約期間の満了を迎え、また、所有者の御事情もあり、この三月末をもって、市民利用施設としては閉鎖することとなりました。これからは、千万町の山里に佇む古い民家の一つとなります。

私たちは常日頃、新しく便利で機能的なものを追い求めて生活していますが、一方で、古いもの、素朴なもの、そして、自然豊かな空間を懐かしみ、見て、触れて、体感したいとの思いもあります。それは、日常生活の中では気付かない新たなものを発見して感動したり、日常では味わえない深い安らぎの一時を体感できたりするからではないでしょうか。

一昔前と比べれば生活が豊かになり、私たちは、古くなったら壊す、あるいは捨てるということに慣れ過ぎていくように思います。古くてもまだ使えるものは修繕して大切に使うべきで、千万町茅葺屋敷のように、長い年月を経ると味わいや風格が増してくるものもあります。また、その屋敷の佇まいに、そして、そこで再現される昔の暮らしの中に、私たちが忘れ去ってしまった学ばべき先人の知恵が隠されているような気がします。

この茅葺屋敷に限らず、市内には古くから引き継がれた貴重なものがたくさんあります。そうしたものを大切に後世に引き継ぐことが、今を生きる私たちに課せられた使命であり、あわせて、そうした思いを子供たちに引き継ぐことも、私たち大人が果たさなければならぬ大事な使命であると思うのです。

(てらだ ゆうじ)



人に聞く



飽くなきあこがれとともに

元MTBマウンテンバイクプロ選手

鈴木 雷太 氏

自転車文化をさらに日本に根付かせるために必要なことは何ですか、という質問に対して、

「メダルをもたらすことです。」

と、雷太さんは即座に答えた。その真摯な表情からは、自転車に対する熱い思いが感じ取れた。

雷太さんが自転車と出会ったのは、岩津中学校時代だったという。

「中学二年のとき、ロードレーサータイプの自転車を買ってもらいました。それからは、下校後に村積山や駒立まで走ったり、夏休みには長野県の松本まで二〇〇kmを走破したりしました。風を切って走る爽快感に夢中でした。岡崎商業高校在学時から自転車の大会に出るようになり、卒業文集に『オリピックに出る』と書くくらい、オリ

ンピック出場への気持ちを高めていました。」

この夢を、実現可能な目標にしてくれたのは、オランダ留学で出会った、ある人の一言だった。

「自転車留学していたオランダから帰国する際、オランダのMTBナショナルチームの監督だったヒューブ氏にマウンテンバイクをやってみると言われたのです。それで、マウンテンバイクに専念することになりました。それが大きかったですね。一九九九年にはアジアチャンピオンになり、シドニー五輪の出場枠を日本にもたらすことができました。さらに、その出場枠を巡る国内選考試合で優勝し、代表選手になることができたのです。初めてのオリピックで緊張したかというところ、そんなことはありませんでした。経験したことのないくらい清々しい気持ちでスタートすることができました。五十人中三十四位。満足のいく結果でした。」

二〇〇二年と二〇〇五年には、全日本チャンピオンに輝き、名実ともに日本を代表するトッププロとなった。



当時は、体重五十一kg、体脂肪はなんと五%。具体的な目標を達成するために努力し続け、マラソン選手並みの体を作り上げてきた。そして、二〇〇七年、三十五歳のときに引退の日を迎えた。

『やり尽くした。これ以上やっても伸びない。さらによい成績を出すためのアイデアを出し尽くした』という思いとともに、『新しいことをやってみよう。自転車好きに自分の経験を伝えたい』という思いが強くなりました。それで引退を決め、自転車ショップを開店したのです。」

引退以降も、コーチとしてロンドン五輪に参加したり、自転車に乗れない子供たちのための講習会を開いたり、自転車文化のさらなる普及のため、精一杯尽力する日々である。

「近年、漫画などの影響により、自転車の競技人口の裾野は急激に広がってきました。あとは、その頂点に目指すべきものとして、オリンピックのメダルがあれば、もっともっと活発になっていくはず。」

雷太さんを突き動かすのは、自転車がくれた風を切って走る喜びと、自分の夢を後輩たちが達成してくれることへの飽くなきあこがれである。日本のマウンテンバイク競技の偉大な先駆者は、これからも力強く走り続けていくことだろう。

氏名 すすき らいた
生年月日 昭和四十七年八月十一日
住所 長野県松本市

羅針盤

校長の信念で学校を変える

井田小学校長

岡田 豊

「校長には、人・もの・金の権限がないから、思うような学校づくりができない」という声を耳にするが、果たしてそうであろうか。

確かに校長に与えられた裁量は限られている。しかし、その限られた条件の中で魅力ある学校づくりを実現することも決して不可能ではない。すべては校長の明確なビジョンと強い信念にかかっているのである。私はこれまでに三校の校長を務めてきた。それぞれの学校で自分の信念の下で学校づくりをしてきたつもりである。ここでは、本校の実践で恐縮だが、紹介したい。

○井田学区唯一の水田「井田んぼ」を学校敷地内に造成する。

○子供たちのアイデアでゆるキャラ「井田ツッキー」を誕生させる。

○児童会組織（井田小ジュニアキャピネット）を復活する。



成長のチャンス

竜海中 金澤 徹

「前期生徒会が目指す学校像は、一体感のある学校です。千人を超える竜海中学校生徒全員が、同じ思いで物事に取り組めば、市内のどの学校よりも大きなパワーを生むに違いありません。」

真面目で、責任感の強いA男は生徒集会で、緊張交じりに生徒会長としての所信表明を行った。

二週間後に、生徒会役員が企画する新入生歓迎レクを控えていた。A男を中心に話し合いを進めている様子を見ていて、絶対に成功させようという、この企画にかける強い思いを感じた。しかし、これは過去に例のない今年からの新しい行事である。どのような形のレクにすれば、全校に一体感を感じてもらえるのか、彼らは悩んでいた。なかなか決定的な答えを出せず、焦りを感じたA男は、生徒会顧問の私

のところ相談にきた。

「時間がかかってもいいから、七人で答えを出しなさい。それが大事なことだよ。」

私はA男の求めるような答えは出さなかった。A男は、

「はい。」

とだけ言い、小さくうなずいた。

解決の糸口になったのは、ある役員の「私、部活の後輩や先輩しか、他の学年の子と話をしたことがない」という一言であった。それにヒントを得たA男は、

「そうだ。縦割り学級対抗形式のレクにしたらどうだろう。」

と提案した。役員全員の顔が一気に明るくなった。私も、

「最高だ。それで行こう。」

と彼らを後押しした。

「三年生が一緒に参加する全校種目を作ろう。全校種目は、三人一組でバーを持って大縄を跳ぶバージャンプにしようよ。もちろん三人組はすべて違う学年ね。」

A男も次々とアイデアを出した。

彼らの思いは、三年生が互いに応援し合う縦割りの活動となり、予想以上の盛り上がりを見た。A男は、全校の動きを見て、事前に用意したアナウンス原稿を臨機応変に変更していた。そして、笑顔で競技している全校生徒に声を掛けながら、会の

進行を確認していた。その表情はと

ても晴れやかで、どの生徒よりも会を楽しんでいるように私には見えた。

この後、A男たちは新たに、縦割り学級による全校清掃を企画した。三年生が交流を深めながら活動できることを確信したA男たちは、体育大会、文化祭など、あらゆる学校行事で「一体感」という言葉を使って、全校生徒の気持ちを一つにするように努め続けた。

成功をつかんだとき、子供たちは大きく成長する。どの子もそのチャンスをつかめるよう、寄り添える教師でありたいと強く思う。



伝統を守っていくことも大切である

が、今、目の前の子供たちにとって何が必要かを考えたとき、自ずから学校づくりの姿が見えてくる。安易な前年踏襲を繰り返したり、今までにないことだからと躊躇したりすることなく、校長の思いを学校の夢として一丸となって実現することである。

私には学校づくりをする上で常に心がけていることがある。

▼「元気な学校」「魅力ある学校」を作るためならどんなことにも挑戦すること。

▼子供や先生が頑張っていることを積極的に外に発信すること。

▼先生のを引き出し、生かすこと。

▼「チーム・ザ・井田小」を核として、職員には組織の一員としての自覚をもたせること。

▼プラスアルファの仕事が学校を変えること。

▼自分の信念をしっかりとって絶対にぶれないこと。

「学校を変える」ということは、それなりにエネルギーのいることである。「同じ船に乗ったかぎりは、ひたすら私を信じてついてきてほしい」と、職員に対して向かうべき方向を明確に伝え、お願いする。

究極これが校長の仕事だと思っている。



平成26年度 岡崎の教育

▲ 満開の「さくら」 — 竜海中学校 —

岡崎の教師の系譜

「私が、小中学校時代に出会った多くの先生方は、私にとつてとても大きな存在でした。どんな時も私のことを見守ってくださり、先生が傍にいてくれるという安心感と心強さでたくさんの方に挑戦でき、心の支えとなっていました。そして、私もいつしか子供に寄り添う教師になりたいと思うようになりました。」

これは、この春、採用されたある新任教師の言葉である。岡崎の教師に守られ育った子供が、大人になり、教師のありがたさに気付き、岡崎の教師になったのである。

岡崎の教育には、長い歴史がある。それは、常に子供の成長を願い、教師はどうあるべきか、授業はどうあるべきかを考え、同僚とその姿を模索してきた歴史でもある。多くの岡崎の教師が、子供の心をつかむために、目の前の子供の心に寄り添い、休み時間に子供と遊んだり、子供の日記に朱書きをしたりしてきた。また、少しでも授業力を高めようと、指導案を書いて授業をしたり、自主サークルに参加して自分の実践を発表したりしてきたのである。教育に対するこうした真摯な姿勢は、今も岡崎の教師の伝統として引き継がれている。

岡崎の教師は、冒頭の新任教師が出会った教師のように、子供たちの幸福をひたすら願い、常に子供に寄

り添う教師でなければならない。そして、多くの先輩教師のように、新しいことに敢然と「挑戦」し、ひたむきに努力する「覚悟」をもつ教師であり続けたいものである。

岡崎の教育の視点

学校教育に求められているものは、幼児・児童・生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。その原点には、教師の「子供の幸せを願う強い思い」と「人間形成への情熱」がなければならない。

各園・学校においては、基本的・基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、公共の精神を尊び、幼児・児童・生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。そのために、園・学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことができる、安全で魅力ある園・学校づくりを目指したい。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全園・全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と学校とが協働し、信頼される教育の創造に努めることを大切にしたい。

そして、次のことを指導の重点と

▶ おもてなしの心 — 額田中学校 —



▶ 伝統文化 — 六ツ美南部小学校 —



し、さらなる教育の充実を図っていく。
 ◎学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進

◎命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進

◎体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

岡崎の教育の挑戦

(一) ESDのさらなる推進

今、世界では、環境・経済・社会などの分野で、深刻で複雑な問題が発生している。それらをどのように解決し、社会はどこに進むべきかという問いに対する答えが「持続可能な社会」であり、岡崎市では、その実現に向け、ESD（持続発展可能教育）に挑戦している。

平成二十二年度には、①英語教育の充実②環境教育の充実③岡崎の心の醸成を岡崎の三本柱として設定し、全市で取り組むことで、岡崎の教育の新たな方向性を創り出した。

平成二十五年度は、持続発展可能な力を、世界に通用する基礎的・基本的な知識・技能や、あらゆる変化に対応するための、多様性のある見方・考え方、豊かな心であると捉え、全小中学校がESDカレンダーを作成し、取り組んだ。

平成二十六年度、ESDのさらなる確実な推進を図るために、次の三

つのことを重点とする。

①英語教育の充実

小学校では、自作DVD教材（Okazaki Kid's English）を確実に実施して「聞く力」を伸ばす。中学校では、自作テキスト教材（Our City OKAZAKI）を積極的に活用し、「話す力」を伸ばす。

②環境教育の充実

義務教育九年間で一貫した環境教育を行うために、「岡崎市環境学習プログラム」を各小中学校で確実に実施し、地球温暖化や環境破壊などを自分の問題としてとらえ、主体的に考え、判断し、行動できる子供を育てる。

③「岡崎の心」の醸成

「岡崎の心」の歌「夢三部作」や自作道徳資料「夢をつむいだ人々」（各学年一題材）を積極的に活用したり、岡崎に関わる人・もの・ことを教材や題材として取り上げたりして、岡崎への愛着や誇りを高めることで、岡崎の心の醸成を図る。

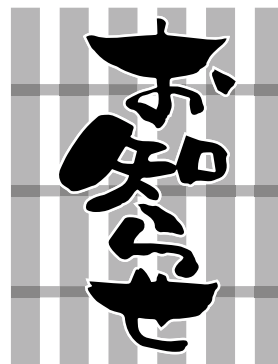
(二) タブレットPCを活用した授業改革
 平成二十五年年度、市内中学校三校にタブレットPCを配付し、英語科を中心にその活用方法を研究した。その結果、英語科の授業においては、これまで一斉に行われていた発話練習を個のペースで習熟度別に行うなど、新たな授業方法が提案された。その結果、定着率が格段に上昇し、学習意欲の向上が見られるなど、教育効果が高いことが分かった。また、

数学科の立体図形の学習で活用するなど、英語科以外の教科でも活用できる可能性があることも分かった。

そこで、平成二十六年度は、岡崎市の全中学校にタブレットPCを配付し、活用を図ることとした。具体的には、学校規模に応じて二十台から六十台を配付し、数学、理科、英語の三教科で、新たな学びのスタイルや指導法の研究を進める。

また、別途、タブレットPC活用研究パイロット校として中学校の三校を指定することとした。指定校には、タブレットPCを二十台から四十台追加配付し、先導的な実証研究に取り組む。加えて、情報教育推進委員会（特別委員会）においても、タブレットPC活用方法を研究していく。指定校と推進委員会が、タブレットPC活用の実践単元や具体的な活用方法を中学校に提案することでタブレットPCを活用した授業改革を、全市的に進めていくこととする。

タブレットPCの教育への導入は、教育界のイノベーションと考えている。タブレットPCの「時間的・空間的制約を超える」「双方方向性を有する」といった特長を生かすことで、一斉指導による学びに加え、生徒一人一人の個性や能力に応じた学び、生徒同士が学び合う協働的な学びを推進する可能性があるからである。つまり、これまでの一斉授業を補完するため、授業の在り方を根本から見直すのである。



●教育関係機関だより

○岡崎市総合学習センター
受付 〇五四―一―一五
事務室 〇八三―七七七〇

岡崎市総合学習センターは、オープンしてから三年になる。

一般も利用可能な、大ホール、第1・第2会議室、和室、小ホールと、教育研究専用施設、教育研究室1～4、教材開発室1・2、教育図書室がある。

本センターは、社会教育も含め、岡崎市の教育に関わる活動の中心として広く利用されている。特に教育図書室は、図書だけでなく、学芸会脚本の集約、DVDの閲覧、授業指導案データのコンピュータ検索など、現場の先生方に役

立つ情報が充実している。

教育アドバイザーも配置し、先生方の様々な相談に対応できるようにしている。

○教育相談センター

〇七―三三〇一

就学やいじめ・不登校等の教育相談を行う「そよかぜ相談室」と不登校児童生徒が通所する「ハートピア岡崎」が施設内にある。増加する相談に対応するため、本年度、臨床心理士を増員した。より迅速に個々の子供の状況に応じた支援できるよう努める。

◇「そよかぜ相談室」

主な相談内容は、不登校、いじめ、就学、発達の心配である。相談をしたい方が電話で予約して、来所し、臨床心理士や相談員と相談を行う。

また、発達障がい専門家が巡回相談を実施する。

◇「ハートピア岡崎」

学校への復帰を目指し、子供がハートピアへ通所し、指導員やハートピア専属の臨床心理士による支援を受ける。

また、通所できない子供には、学校からの要請に応じて、登校支援員が家庭訪問や登校の支援、相談等を行う。

○少年自然の家

〇四七―三三五七

須淵の自然の中、野外炊飯活動・集団宿泊生活・自然体験等を行う子供たちの元気な声が所内に響く。この少年自然の家は、昭和五十二年に開設して以来、心身ともに健全な青少年の育成を図る教育施設となってきた。

昨年度、七千人を越す市内の小中学生が山の学習で利用しただけでなく、ネイチャークラブ等の主催行事も行った。また、市内外の諸団体の野外体験活動や教職員の宿泊研修にも活用された。

●表彰

今年度、トイレの改修・階段の手すり設置も予算化され、使いやすい施設で、楽しく充実した活動が行われる。

◆2013年度キッド・ウィット
ネス・ニュース日本コンテスト
未来への眺望賞
葵中三年

◆12回全国子ども科学映像祭
中学生部門 優秀賞
竜海中二年 杉山 杏那
小学生部門 佳作
愛宕小 たんぽぽあじさい学級

松原綾音・水野雄太・宮田真優・高橋創志・荻野麻理奈・木下裕代・成瀬悠夏・栢田七海・加藤 希

◆16回キューブ活用コンテスト
活用賞
生平小学校 五年生

文化伝承賞
大門小学校 五年一組

◆2013年度グローバル教育コンクール
グローバル教育取組部門 入選
井田小教諭 佐野 恵広

◆創造アイデアロボットコンテスト全国大会
授業内部門 審査員特別賞
常磐中三年

◆第22回上廣道德教育賞
小学校の部 優秀賞
井田小教諭 佐野 恵広

柴田 泰典・中根 芳規
細川 雅矢

◆第18回中学生高校生生管打楽器ソロコンテスト東海大会
チューバ独奏 金賞
六ツ美北中二年 山内 滉也

◆全国児童才能開発コンテスト
作文部門
全国連合小学校長会会長賞
矢作北小四年 岡田 楓梨

◆全国大会に出場
フルート独奏 金賞
六ツ美北中三年 大西 生馬

日本PTA全国協議会会長賞
大樹寺小一年 野々山明臣

六ツ美北中三年 伊豫田美和

◆第41回愛知県人権を理解する作品コンクール

ポスターの部 最優秀賞

甲山中二年 鳥居 愛由

ポスターの部 優秀賞

梅園小一年 島 遥日

書道の部 優秀賞

緑丘小五年 吉田 多映

標語の部 優秀賞

常磐東小五年 青山 竜大

大樹寺小六年 森下咲良里

福岡中二年 岡田 樹

◆愛知県アンサンブルコンテスト県大会

木管三重奏 金賞

竜海中学校

●期待の新任教員

平成二十六年年度岡崎市小中学校新規採用教員は八十一名

(養護教諭・栄養教諭を含む)である。

なお、新任教員の配置は次のとおりである。

◆新規採用教諭

梅園小 本田 裕子

根石小 加藤 雅也

大谷 啓介

男川小 江川 彩香

美合小 萩原 光彦

緑丘小 西山 武雄

上丸 理恵

三浦野乃花

羽根小 小幡 隆洋

林 知奈

岡崎小 山浦 麻衣

六名小 伊藤 実穂

三島小 外山 倫子

竜美丘小 天野 志保

連尺小 鈴木 汐梨

広幡小 佐宗 敬泰

井田小 中川 舞子

栗田 順正

山本 翔太

中野 翔太

瀧澤 琴美

鈴木 尚子

本田 佳子

片岡 悠介

藤川小 太田 絢子

竜谷小 田島 優一

秦梨小 柴田 麻有

常磐南小 金田 翼

常磐小 細川小 福輿 佑希

手島 憲人

木村 朱音

石谷 将大

岩月 駿人

加藤 佳恵

後藤 有貴

高橋 千春

柴田 博巳

鈴木 彩乃

藤渕 俊旭

沓名 和貴

相馬 月子

森下 真衣

堀内 美沙

加藤さゆり

佐藤 明子

鈴木 隆

竹下 都

大森可南子

吉田 唯華

小野 晃伸

木下 賢治

河上 恵利

酒井 優子

小川 実優

宇野 成美

志賀 俊太

深津なつみ

甲山中 西村 美穂

大橋 有紗

美川中 鈴木 智香

竜海中 蟹江 陽平

堀口 宏章

葵中 山崎 義弥

東海中 神谷 治己

岩津中 矢部 貴司

長田 健

矢作中 鈴木 雅樹

六ツ美中 梅村 春香

六ツ美中 今井 千尋

矢作北中 竹田 実里

新香山中 武田 泰実

竜南中 石原 佳世

北中 柴田果里奈

六ツ美北中 白井 浩太

額田中 山本 陽子

井田小 川上 真依

豊富小 近藤美紗子

矢作北中 都築 日香

大樹寺小 永田 祐己

◆新規採用栄養教諭

●期待の新任事務職員

平成二十六年度の新任事務職員は七名で、配置は次のと

おりである。

根石小 川崎 史裕

竜谷小 鈴木 隆太

下山小 前田 泰寿

甲山中 佐藤 亮太

竜海中 伊藤 亜弥

葵中 樋川 陽一

矢作北中 田丸 智大

●平成二十六年岡教組執行委員

執行委員長 山元 嘉与

執行副委員長 林 正彦

書記長 神谷 敦仁

書記次長 増野 隆

組織部長 加藤 良彦

情宣部長 近藤 秀子

教文部長 森田 淳一

福対部長 白川 真理

調査部長 伊藤 将生

会計委員 栗山 茂三

青年部長 石川 俊之

女性部長 岡本 弘恵

●平成二十六年愛教組執行委員・常任

執行委員 青木 貴之

女性部常任 市川 岸江

・題 字
 ・タイトルバック 教育長 高橋 淳
 ・カ ッ ト 秦 梨 小 畔 柳 とも子

アイドル犬「アパッチ」の慰霊祭 (昭和56年)

写真提供：甲山中学校



今から三十年以上前、本校には、全校生徒に慕われた「アパッチ」というアイドル犬が存在した。アパッチは、いつしか学校に住みつぎ、十年以上も生徒にかわいがられていた。

アパッチは、白い毛並みの雑種で、校内でひなたぼっこをしたり、全校集会等で生徒と一緒に運動場に並んだりし、鎖につながれることなく、当時の生徒たちと気ままに過ごしていた。

しかし、昭和五十六年、アパッチは、病気になる、治療の甲斐なく、この世を去った。その後、生徒会役員の呼びかけで募金活動が行われ、同年六月に、保護者の支援を受け、校内に御影石の立派な墓が出来上がった。

写真は、アパッチ慰霊祭の様子である。その後、時の経過とともに、少しずつアパッチの記憶は薄れていったが、死後三十年を迎え、子供たちとの関わりやアパッチを慈しむ姿が、テレビや新聞でも取り上げられることになった。

生き物と関わり、命について考えることの大切さは、今も昔も変わりがない。



四月は、新たなスタートを切るとき。気温の上昇とともに体の底から力が湧いてくる。志を胸に新学期がスタートする。その思いが実を結びますように。

シオ スア

好きな先生のクラスになりたい。多くの子供が思うところであろう。私たちは、好かれる教師を目指していればいいのか。そうではないはずである。学年末になって、「このクラスでよかった」、そう子供が思える学級づくりをしていきたい。それが、私たち教師の使命ではないだろうか。

「おめでとうございます。」
 目を輝かせて入学する子供たちを見ると、身が引き締まる思いがする。彼らの笑顔が卒業まで続くように、私たち教員は一人一人に寄り添い、日々精進していかなければならない。新しい年度となった。この一年、目の前の子供たちに全力で向き合っていきたい。

鮮やかな色のマウンテンバイクを見せてくださった、鈴木さん。その表情からは、好きな自転車に関わって生きていけることへの喜びと誇りが感じられた。自転車は身近な乗り物だが、少し意識を変えるだけで、大きな喜びをもたらしてくれるスポーツとなる。久しぶりに自転車に乗って風を感じてみたくなった。



*ノボさん 小説 正岡子規と夏目漱石 伊集院 静 講談社 ¥1,680

心に残った一文
 高ければ高いほど途中の道は下りが多い。

正岡子規、通称「ノボさん」。ノボさんは、一つのことに興味をもったら、とことん向き合い極めようとする。でも、お金のことは無頓着。ノボさんの家族は、ノボさんの可能性・才能を敬愛し、全力で支えようとする。親友の漱石との関わりも面白い。数多くの人格者を輩出した伊予の国、その土地柄や人柄、伊予の教育、当時の東京や大学、文学（俳句の再興、小説の登場）、野球（のボール）の始まり、すべて魅力あふれる内容であった。

*大人になって読むアンデルセン 須田 諭一 ¥1,620
 メトロポリタンプレス
 *地球全史の歩き方 白尾 元理 ¥2,052
 岩波書店
 *敗者の古代史 森 浩一 ¥1,944
 中経出版
 大門小 武田 正道